# 水不足問題の解決に向けて

奈良市立一条高等学校附属中学校三年
兼松　彩香

近年、私はテレビでこのような話題を耳にした。世界の水不足問題。世界中には水不足によって生活に支障が出てしまっている人たちがいる。十分な水を確保できない人たちや、安全ではない水を使用しなければいけない人たちなど、数えきれないほどである。現在、世界総人口の約八十一億人のうち、約二十億人が水不足に悩まされている。つまり、これは四人に一人が水不足の影響を受けていると考えられる。私たち日本人からは想像できないような問題だが、その数は今後も上昇するだろうと考えられている。このような水不足問題を日本の技術を用いて解決に近づけることはできないだろうか。

まずは、水不足により起こっている問題から考えた。それは主に二つ存在する。

一つ目は生物への直接的な影響だ。このまま

水不足が進み、枯渇してしまうと、多くの生物も影響を受け、絶滅してしまう種も出てくるだろう。また、菌に汚染された水を飲むことで感染する伝染病で苦しめられている人たちもいる。二〇一六年に中央アフリカ共和国では、急性の下痢などを引き起こすコレラという伝染病が流行し、多くの死者を出したというニュースがあった。世界では、安全な水ではないとわかっていても飲まざるを得ない人たちが多くいるのだ。

二つ目は水不足問題が引き起こす対立や紛争だ。水不足は健康への被害だけでなく、水資源配分の問題、水質汚染の問題、水の所有権・水資源開発の問題などが原因で紛争を引き起こすこともある。例えば、ナイル川では水力発電や生活用水などをめぐって流域の国でこれまでたびたび対立が起こった。二〇二一年には、エチオピアがナイル川上流で建設中の巨大ダムで今年の貯水を始めると表明し、これによって水不足を懸念する下流エジプトとスーダン

が反発を強めた。他にも、ドナウ川ではハンガリーとスロバキアが運河のための水利用に関して対立し、インダス川ではインドとパキスタンが水の所有権問題で対立した。このように水不足問題によって対立や紛争が引き起こされ、現在でも解決していないものも多くあるのだ。

ここからは水不足問題の解決に向けての取り組みを考える。この問題はSDGsの六番目の目標である「安全な水を世界中に」にも指定されており、これまでも様々な団体が活動してきた。例えばNPO・NGOの支援団体やユニセフは、衛生習慣の改善の促進や住民全体で取り組むプロジェクトの実施、給水設備やトイレの設置などを行っている。

では、日本はどのような取り組みができるだろうか。それは世界一とも言われている日本の水処理技術を用いた活動である。海水を安全な淡水に変える技術には、蒸発法と逆浸透法というものがあり、この技術は中東やアフリカなど水不足で苦しむ地域を中心に導入されている。

さらに、海水と比較して三分の一のコストで飲み水を作ることができると注目されている、下水の浄化処理にも日本の技術を組み合わせたシステムが利用されている。さらに、日本の技術は低コストでメンテナンスも容易なことから開発途上国でも導入しやすいとされている。このように日本の優れた技術を利用することで水不足問題の解決に大きく貢献できると考えられている。

　また、この問題を解決するには私たちの意識も大切だ。料理、入浴、洗濯など、私たちは生活の様々な場面で水を使用する。その際、使用量を抑えて節水を心がけ、少しでも意識することが対策へとつながる。私も、日々の節水を心がけて水不足問題の解決に向けて少しでも貢献できるように取り組んでいきたい。